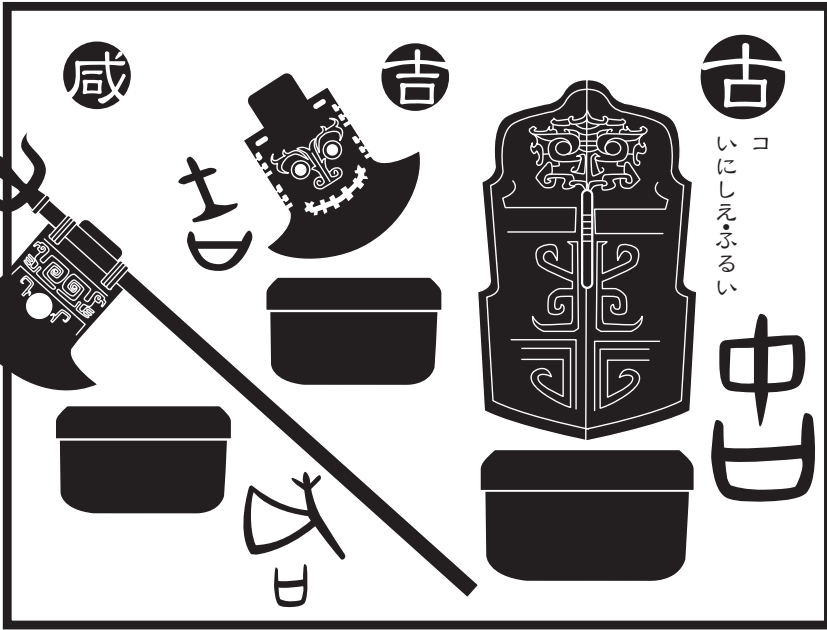


白川静のことば  
《35》

古

いにしえふるい

中



金子都美絵・画

言霊ことだま的な信仰は、アニミズム的なものの遺存として、原初の宗教的観念のうちに濃厚に存していたと考えられ、古代の社会、また未開の民族の間にも、広く行なわれていたものである。

〳〵中略〳〵

しかし日の中にある祈りは、その器のなかで、人に知られることなく保たれることよって機能する。その機能を維持するために、器を守ることが必要とされた。それで日の上に、大きな方形の干たてをおいて、これを守る。それが古である。固のものとの器であるが、機能が久しく持続されることを、古という。もしその器をたたいて、それが破損するようなときには、故という。事故の意であり、それは故意に加えられたものである。

日を守るためには、また鉞まさかりの頭部をおくことがある。それは古である。上部は士の身分を示す儀器。士の身分をいう語としても用いられる。その大なるものは王の儀器で、また王の字に用いられる。いずれも鉞頭の形である。また鉞の全形を日に加えているものがある。それは咸である。吉は「詰める」「結ぶ」と同系の語で、中にみたくして安定させる意味があり、咸はことがおほ減ること、かたく緘とじることという。祈りを堅固に緘とじこめることによって、祈るという行為が完了するのである。

『中国古代の民俗』講談社学術文庫 125～261

